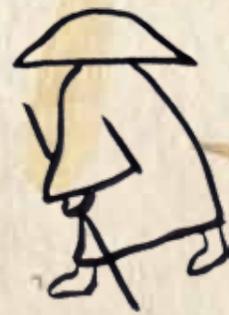


# 先人の足跡1泊2日プラン

## 吉田松陰や菅江真澄、伊能忠敬など 歴史上の人物も旅した林道散策と寺院巡りコース

※林道散策の場合、車の回送などがないため、峠で折り返すなど工夫が必要です。



### 1日目

- ①奥津軽駅
- ↓ (33km・車50分)
- ②平館不老心死温泉  
〔松前街道〕
- ↓ (20km・車30分)
- ③始覚山本覚寺
- ↓ (5km・車8分)
- ④龍馬山義経寺
- ↓ (3.2km・車4分)
- ⑤みちのく松陰道  
〔三厩一小泊 林道散策3.35km〕  
※所要時間約1時間（徒歩）
- ↓ (5km・車8分)
- ⑥竜泊温泉青岩荘（宿泊）

### 2日目

- ⑥竜飛崎温泉青岩荘
- ↓ (10km・車15分)
- ⑦徐福の里公園〔中里〕
- ↓ (37km・車60分)
- ⑧西の高野山〔弘法寺〕
- ↓ (45km・車1時間10分)
- ⑨春光山円覚寺
- ↓ (8km・車12分)
- ⑩黄金崎不老不死温泉〔深浦〕



⑥竜泊温泉青岩荘



⑦徐福の里公園  
約2,200年前、秦の始皇帝の命を受け、中泊町の権現崎に不老不死の薬草を求めて漂着したとされる徐福伝説が残る町。



⑩黄金崎不老不死温泉

⑤みちのく松陰道  
吉田松陰が、北方の守りの重要性を説く為に津軽を訪れて歩いた道が整備され、みちのく松陰道と命名された。



吉田松陰  
長州藩士・吉田松陰が22歳の頃、外国船が北方の海に出没することを知り、その防備状況を確認めべく、脱落覚悟で東北へ旅立った。小泊から算用師峠を越えて三厩の海岸に出た。

菅江真澄  
江戸時代の紀行家・菅江真澄も津軽野を北へむかって、五所川原、金木を通り、西海岸の北端の十三の湯湖権現崎をめくり、算用師峠へ岐れる処まで行って引き返している。

伊能忠敬  
日本地図をつくった人物。測量日記に「津軽の先端三厩3度測る」とある。1日平均40kmも測量するなど超人的な仕事量である。



①奥津軽駅(仮称)イメージ図



②不老心死温泉

⑧西の高野山 弘法寺  
和歌山県の高野山に対し、極楽浄土を表す西をもって西の高野山と呼ばれるようになった。境内には、県内最古といわれる弘法大師像やお休み大師像があり参拝者の心を和ませてくれる。



②始覚山本覚寺  
当寺の第五世住職貞伝上人は、名僧の誉れ高く、地域の産業振興にも尽くした人物。貞伝上人が鑄造し、自らその下の穴に入って即身成仏したといわれる青銅塔婆は、昭和34年に青森県重宝に指定されている。



③龍馬山義経寺  
かつて義経がこの地に逃れたとき、荒れ狂う津軽海峡を前に観音像をまつり、3日3晩の祈願をして竜馬を与えられ渡海できたと伝えられる。津軽海峡を見下ろす義経寺の境内にはかつて西国からの北前船などがお守りや重石としていた石の観音像が33体安置されている。



⑨春光山円覚寺  
聖徳太子の作と云われる十一面観音が安置されたのが起源と伝えられる真言宗のお寺。国の重要文化財の薬師堂内厨子や日本最古の北国船の船絵馬、ちょんまげの絵馬、毛髪刺繍の涅槃図などを見ることが出来る。